

令和3年9月30日

タレンツ・トーキョー実行委員会（東京フィルメックス）

映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2021」講師・参加者決定、 修了生向け「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」選抜企画発表

映画分野における人材育成事業「タレンツ・トーキョー」は、アジアの若手の映画監督やプロデューサーに、世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供するものです。世界的に実績のある「ベルリン国際映画祭」と提携して実施しています。

近年、世界の主要な映画祭において、修了生たちの活躍がめざましい本プロジェクト。今年も、「Let's Start a Conversation」のテーマのもと、11月1日（月）～6日（土）までの6日間の日程で行います。例年は、東京に結集し、合宿生活を送りながら様々なプログラムに参加するものですが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の状況を踏まえ、オンラインで実施します。毎年たくさんの方にご来場いただく公開プレゼンテーションも、11月4日（木）に完全オンラインで世界配信をいたします（要事前登録）。

このたび応募選考の結果、15名の参加者（タレンツ）が決定しました。メイン講師には、ペンエーグ・ラッタナルアーン氏、アーミ・レイ・カカニンディン氏、イザベル・グラシャン氏の3名を迎えます。

また、修了生対象プログラム「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム」では、タレンツ・トーキョー修了生を対象に、a) 企画開発ファンド：製作前の企画を実現するための支援（上限100万円）、b) プロモーションファンド：完成間近の作品を後押しする支援（上限50万円）の2種類の資金援助を実施しています。このたび、選抜企画が決定しましたので、あわせてお知らせいたします。

詳細については、別紙1～3をご参照ください。

- 1 「タレンツ・トーキョー2021」メイン講師（別紙1のとおり）
- 2 「タレンツ・トーキョー2021」参加者（タレンツ）（別紙2のとおり）
- 3 ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム選抜企画（別紙3のとおり）

<開催概要>

名称：タレンツ・トーキョー 2021 (Talents Tokyo 2021)（略称：TT2021）
会期：令和3（2021）年11月1日（月）～11月6日（土）
会場：オンライン
公式サイト：<https://talents-tokyo.jp>
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会（東京フィルメックス）
提携：ベルリナーレ・タレンツ（ベルリン国際映画祭）
協力：ゲーテ・インスティトゥート/東京ドイツ文化センター
事業に関する問合せ先：実行委員会事務局 TEL：03-6258-0333

(*本事業は、平成22年度は「ネクスト・マスターズ・トーキョー」、翌23年度から25年度は「タレント・キャンパス・トーキョー」、26年度より「タレンツ・トーキョー」の名称で実施しています。)



別紙1「タレンツ・トーキョー 2021」 メイン講師



(左から、ペンエーグ・ラッタナルアーン氏、アーミ・レイ・カカニンディン氏、イザベル・グラシヤン氏)

ペンエーグ・ラッタナルアーン (監督)

タイ、バンコク生まれ。1997年、それまでのタイ映画の型を破った長編映画『Fun Bar Karaoke』で監督デビュー。1990年代後半～2000年代初期のタイ映画界ニューウェーブのパイオニアとして知られる。『Sixty-nine シックスティナイン』(1999)、『わすれな歌』(2001)、『地球で最後のふたり』(2003)、『ヘッドショット』(2011)の4作品は米アカデミー賞外国語映画賞部門に正式出品された。数々の作品が世界のメジャーな映画祭で上映され、各国で配給されている。

アーミ・レイ・カカニンディン (プロデューサー)

国際共同プロダクションを手がけるフィリピン出身のプロデューサー。アジア・フィルム・アカデミー、ベルリナーレ・タレンツ、タレンツ・トーキョーの修了生。直近では、アリックス・アイン・アルンパク監督 (TT2015 修了) によるフィリピンの麻薬撲滅運動に関するドキュメンタリー作品『アスワン』(2019/NMSP2017 受賞) を手がけた。同作は、アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭 FIPRESCI 賞、DMZ 国際ドキュメンタリー映画祭最高賞を受賞し、米アカデミー賞ドキュメンタリー部門の対象になった。また、ドキュメンタリー映画としては68年のフィリピンアカデミー賞史上初となる最優秀作品賞を受賞した。

最新作は、台風ヨランダについて描いたカルロ・フランシスコ・マナタド監督 (TT2018 修了) の初長編作品『Whether the Weather is Fine』(2021) で、ロカルノ国際映画祭で若手審査員賞を受賞した他、トロント国際映画祭でも上映されている。同作は、フィリピン、フランス、シンガポールとインドネシアによる共同制作で、仏国立映画センターAide Aux Cinema du Monde、ベルリン国際映画祭 World Cinema Fund、スイス Vision Sud Est、プサン国際映画祭 Asian Cinema Fund から助成、タレンツ・トーキョーのネクスト・マスターズ・サポート・プログラムからは2度助成を得ている。

写真: © Sophia Labayen

イザベル・グラシャン (ワールド・セールス)

フランスのテレビ局、Canal+でジャーナリストとしてキャリアをスタートさせた後、1998年から2003年まで在中国フランス大使館で視聴覚担当を務める。その後、ワン・シャオシュアイ監督の中国映画『青紅～Shanghai Dreams』をエグゼクティブ・プロデューサーとして製作し、2005年カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞。以降、フランスと中国の初共同作品『我 11』(2012)などのワン・シャオシュアイ監督作品に参加する他、リー・ユー、ルー・チュアン、ロウ・イエなどの監督作品を手がける。香港拠点の制作会社 CHINESE SHADOWS とフランス拠点の SHASHA & CO PRODUCTION をそれぞれ設立。CHINESE SHADOWS と SHASHA&CO PRODUCTION の代表作に、ワン・ビン監督作品『三姉妹 雲南の子』(2012/ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門グランプリ)、ワン・シャオシュアイ監督のドキュメンタリー『Chinese Portrait』(2018/釜山国際映画祭)、モーリー・スリヤ監督の『マルリナの明日』(2017/東京フィルメックス最優秀作品賞)などがある。他には、アジアの作品を世に広げるためにワールド・セールス会社 ASIAN SHADOWS を立ち上げる。ASIAN SHADOWS の代表作には、ウェイン・ワン監督の『カミング・ホーム・アゲイン』(2019)やチェン・グァン監督の『Shen Kong』(2021/ベニス・デイズオープニング作品)などがある。フランスと中国との共同製作における功績に対して、フランス文化省から芸術文化勲章シュバリエを授与。現在はユニフランス中国支局長も務める。

別紙2「タレンツ・トーキョー2021」 参加者（タレンツ）

監督：

GUO Rongfei（中国）
Riar Rizaldi（インドネシア）
木村あさぎ（日本）
山下つぼみ（日本）
Minji KANG（韓国）
KIM Jiyoung（韓国）
Zaw Zaw Leono（ミャンマー）
Arvin BELARMINO（フィリピン）
Rafael Manuel（フィリピン）
Russell MORTON（シンガポール）
CHAO Hsuan（台湾）
Ratchapoom BOONBUNCHACHOKE（タイ）
Primrin PUARAT（タイ）
TRAN Thanh Huy（ベトナム）

プロデューサー：

Clarissa ZHANG（中国）

*氏名（国名／地域名）

選考委員会には、池田高明（NHK エンタープライズ）、市山尚三（タレンツ・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長）が参加しました。

一次選考には、深津純子（作家/東京フィルメックス・理事）、神谷直希（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス・プログラムディレクター）、金谷重朗（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス）、林未侑（タレンツ・トーキョー/東京フィルメックス）が参加しました。

*タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。

*令和3年9月30日時点の情報であり、変更になる可能性があります。

別紙3 ネット・マスターズ・サポート・プログラム選抜企画：

a) 企画開発ファンド

筒井龍平 (TT2013年修了、日本) <Underground>

CHIA Chee Sum (TT2020年修了、マレーシア) <Oasis of Now>

Bradley LIEW (TT2017年修了、フィリピン) <Viet and Nam>

Achinette VILLAMOR (TT2020年修了、フィリピン) <Skeleton River>

CHIANG Wei Liang (TT2019年修了、シンガポール) <Mongrel>

Nelicia LOW (TT2020年修了、シンガポール) <Pierce>

Patiparn BOONTARIG (TT2018年修了、タイ) <Solids By the Seashore>

b) インターナショナル・プロモーション・ファンド

Yulia Evina Bhara (TT2020年修了、インドネシア) <AUTOBIOGRAPHY>

Martika Ramirez ESCOBAR (TT2016年修了、フィリピン) <Bird Eyes>

WANG Ping-Wen (TT2019年修了、台湾) <A Journey in Spring>

*氏名 (タレント・トーキョー修了年、 国名/地域名) <企画名>

選考委員会には、池田高明 (NHK エンタープライズ)、市山尚三 (タレント・トーキョー・実行委員長/東京フィルメックス・理事長) が参加しました。

一次選考には、神谷直希 (タレント・トーキョー/東京フィルメックス・プログラムディレクター)、金谷重朗 (タレント・トーキョー/東京フィルメックス)、林 未侑 (タレント・トーキョー/東京フィルメックス) が参加しました。

*受賞者名は国名のアルファベット順で表示しています。

*令和3年9月30日時点の情報であり、変更になる可能性があります。